

事業のタネシート

活動地域・団体名：一般社団法人 ゼロエミやまなし

事業名称 1：北杜市地域循環共生圏 プロジェクト1 『RE100の地域電力を地域でシェアし地域循環共生圏へ』		
北杜市に点在するFIT電源である太陽光発電（RE100）を、地域の観光や地域住民の日常の足、農業に活用、地域全体でシェアする。		
ストーリー		
RE100の地域電力を地域内のあらゆる市民等に提供する。北杜市内に多く存在するFIT電源である太陽光発電などをベース電源として、地域電力会社（自社運営または委託）を立ち上げ、非化石証書やブロックチェーンの仕組みにより付加価値を向上させ、ゼロカーボンかつ地産地消の地域の電源として利用できるようにする。この電力の利用先を確保するために、域内のモビリティのEV化、観光やワーケーションに向けたEVカーシェア事業を立ち上げ、それによりゼロカーボン観光やワーケーションを実現し、他地域との差別化を図る。また、農業の電力化（農作業の移動、暖房等の電力化）や地域住民のEVライドシェアに利用できる仕組みをIT技術でプラットフォーム化、Society5.0の実現に貢献する。また、地域内で創出した電力を利用した場合は、ポイントを付与し、電力以外にEVのシェアリングや地域内の買い物に利用できるようにし、地域循環共生圏をさらに加速させる。従来から、八ヶ岳エリアへの移住や二拠点居住をする人々は、オーガニックでナチュラルな生き方を目指している傾向が強く、その人たちが作るオーガニックな野菜やパンなど食材の購入にもコインを利用できるようにすることで、地域内経済の好循環社会の形成を目指す。		
事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	地域の電力をRE100でまかなっている。地域電力を活用することで地場農産物等の活用も進み、八ヶ岳をはじめとした豊かな自然とともに生きていける地域循環共生圏北杜が実現している。	地域電力会社が地域のFIT電源を地域に供給できる仕組み、非化石証書やブロックチェーンで可能か。また、その場合の価格が高いことが想定されるが、その価格で事業化できるか、採算が合うかが課題。
②課題	地域電力会社が地域のFIT電源を地域に供給できるかが課題、またこの時の電力価格が課題（大手電力会社等比較し、安価での提供が難しく、付加価値の創出が必要）。	
③なぜこの事業をやるのか（Why）	エネルギー購入に際し、地域外に逃げていたお金を地域内で循環、北杜市地域循環共生圏を構築するため（地域循環共生圏の本題と認識）	
④地域資源	自然資本（八ヶ岳、奥秩父等）、首都圏からの移住者、東京圏企業との連携の可能性・RE100電力（FIT）	
⑤商品・サービスの具体的な内容（What）	地域電力会社を立ち上げ、RE100によるEVモビリティであらゆるものをつなぐ、それを運営するITプラットフォームを作り、観光や農業、地域住民の足を提供する。	
⑥担い手（Who）	ゼロエミやまなし、八ヶ岳DMO、清里振興会、IT技術者、車両運行支援者	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	地域のRE100が地域電力となり、日常生活のエネルギーから、農林業・観光業などのエネルギー、地域内交通等すべてのものが地域内で循環する。	RE100運営電力会社・ITプラットフォームの構築（TIS）・事業化の支援（ESG投資）及び構築支援者
⑧事業で生じる成果	東京をはじめとした都心部からの交流人口や移住人口が増え、地域全体が潤う。	